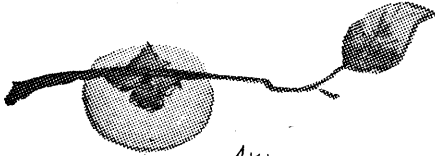


# 『昔話とこども』に見られる時代の推移

——特に戦後の動きについて——



Aki

室谷幸吉

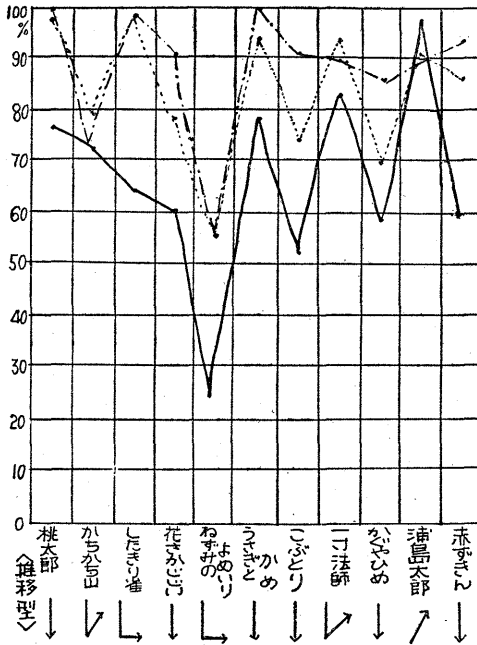
日本五大童話（昔話・お伽噺）がなになにであるか知らない人が、今の若い人たちには多い。それらの人が、ほどなく父となり母となった時、愛児に、「古くから語りつがれ、言い伝えられてきた民族の遺産」である昔話を、現在四十代五十代或はそれ以上の年輩の人達が、かつての幼い時期に、父や母や年よりたちから、語り聞かされて、コードモ心にしみこませた、そのようには、語りつき言い伝えることが、きわめてまれであろうと容易に想像される。

うる覚えのものは、うる覚え程度にしか伝えられないし、知らないに至っては伝えるすべもないわけである。また、たまたま子供らと身近にふれ合い、「語り」を通して心と心との同質化をはかろうと考える殊勝な人があっても、時間的・経済的に、いよいよ多忙さを増してゆく社会生活という大環境が、阻止的条件となつて、その希望をやすやすとはかなえさせないであろうことも、一面、容易に想像される。（都会の家庭に於て一そうこの傾向は強い。）

ところで長い年月にわたり、歴史の洗礼を受け、民族の魂をしみこませ、なお今日、生き永らえている数々の昔話は、コードモらの魂の生長・成育のために、欠くことのできぬ尊い資料でもある。民族的、或はもつと広く人類一般としての「文化遺産」と目される数々の昔話が、コードモらの心に影響を及ぼすその広さ強さには、はかりしれないものがある。

昔話は、文字通り、コードモらにとつての「心の糧」である。すぐれた滋養素である。昔話の世界の中で、コードモらは、深く広くさまざまな人生の智慧を、磨き惜つていく。生きる上での正義や正直・または努力・勤労・協力・同情・忍耐等の正しく生きるために必要な態度や、人生を明かしたのしいものにする実際的な方法までも、コードモらは昔話を通して学びとる。昔話をヌキにして、幼い子供らの効果的な教育は到底考えられない。昔話こそ、コードモらにとつて、重要な心の糧であり、楽しみであり、生きる上での心のよりどころなのだ。幼児にとつての「古典」であり、人間にと

〈第1表〉「話をどのくらい知っているか」の対比表



つての不滅の遺産である昔話に、現代の子供達は、どのような機会に、どのような形でふれていられるか。昭和二十四年から八年間にわたり、戦後の子供たち（小学一年への新入児）

そう古くない、近い過去の時期までは、こども達は、昔話をききとる形として、主として母親やとしより達から「語り聞く」という手だてをもっていた。子供たちは、母親や手空きの老人たちに『夜語り』として昔話をせびつたろう。また母親や、愛する孫に添寝するじいさん・ばあさんは、子供が寝つくまでのひと時、寝物語として快く耳ざわりのいい音声を子供らの耳に送りもしたろう。こうして語り手の口から聞き手の耳へ、語り手の心の深さや居ずまいをそのままいませで、豊かに伝える素朴で強力な直接的伝達の形が守られつづけてきた。

〈第2表〉

伝達指数の総括対比

年度 伝達方法		昭和28年	昭和31年
		図書による	絵本 単行本 教科書 小計
紙芝居 人形芝居 幻灯 映写機 ラジレ テレ歌劇 す六 以上9類小計	芝居	64.3	127.8
	芝居	4.6	4.8
	灯画	26.5	29.7
	オビ	3.6	—
	21.0	4.8	
	—	—	
	19.8	—	
	24.6	4.8	
	3.6	—	
168.0	171.9		
幼稚園の先生		354.1	327.3
家庭人による	母	372.8	282.6
	父	66.8	134.4
	祖父母	60.9	55.5
	小計	500.5	472.5

男女延二百五十人につき調べて得た結果を一応まとめたものである。なお児童は、主として東京山の手に住む中流家庭のものであった。  
ここに集計した童話は、日本古来のもの十・外国のもので、日本古来のものの中『ざるかに合戦』が加えられていないが、それには特別な意味はない。

そしてそういう授受の行われる場所は殆ど家庭であった。ところがそういう事情は、世間の移り変り、文化の進み、人間の知恵の高まりと共に、変容を余儀なくされて来つつある。今日のコードモたちは、母親による寝物語や、じいさんばあさんからさく炉辺語りという形——往々古めかしい形式である、半ば茶化されて言われる昔の形式よりは、映画であり、テレビであり、ラジオであり、或は紙芝居・人形芝居・劇・幻灯といった形、そしてそれ以上に絵本や物語本という文化形式を通して「お話」に接触するようになった。

人と人との直接接触ではなく、人が考えて作り出した「ひとつの組み立てられた物」を通して、間接的に人間に接触するという知得形式上の変化がここにある。それぞれの表現様式には、それらに応じたさまざまな機制が内に働いているわけで、それらの使い方による効果が、昔の『語り方』に払われたと同様の関心のもとに研究されなければならないこととなった。

この間の事情を、第2表の「伝達指数の

総括対比」がよく物語っている。子供らは何を通してお話をしたか」をみると、昭和二十八年では、第一位が絵本・第二位が行本、その他の方法によるものは、この二者とは比べものならぬほど大はばの開きで低下し、三位は紙芝居・四位は幻灯、ついで劇・ラジオ・歌等の順になっている。

三十一年度では一位が絵本でこれは変わらず、紙芝居が二位にせり上って、単行本(三位)と順位が入れかわり、以下幻灯・劇・人形芝居となっている。

そしていずれの年度でも、絵本・単行本をふくむ図書による伝達が、他の方法によるものの総和の約八倍の強さ広さをもっていることがうかがえる。図書の果している役割の大きさには今更驚くばかりである。またそれ故にこそ、子供のために一層すぐれた、良い絵本や単行本の発行が望まれる所以である。

同時に他方に於ては、紙芝居・映画・テレビ・ラジオ・幻灯・人形芝居等の図書にやらない方法——とりわけ子供の活動的な欲求にマッチする方法について、一層活発

な開拓と前進とが図られねばならぬことも、この表は強く示している。

伝達形式の変化は、伝達が行われる場所や、伝達に関与する人間の変化を伴っている。比較的近い昔まで、家庭を主要な舞台として授受が行われていたものが、最近では、家庭から広い外の社会へとび出すことになり、或は劇場へ映画・演劇・人形劇で、或は街頭へ紙芝居で、そして、よりひんばんに幼稚園へ保母さんのお話・絵本・紙芝居・幻灯で行われるようになってきた。

家庭というワクをのりこえたことによつて、今まで母親や老人たちがつとめていた役割を、俳優や声優、紙芝居業者、保母さん達が荷うことになってきた。

このことは、同じく第2表の下段の数字がよく物語っている。幼稚園の先生を介しての伝達が、家庭の母親と同数か(昭和28年)或はそれを上回って(昭和31年)いること。

しかし母・父・祖父母をひっくりかえり、

家庭人を通しての伝達が、幼稚園の先生を通してのそれより約五割方多いということ  
は、古来の形である『語り伝え』の推移の上から注意深く見られねばならぬものであ  
つて、こうした形は、長く失われ・忘れら  
れてはならぬものだと思う。

調査の結果を通じて明らかになるのがえる  
ように、こうした「昔話の取得形式」の入  
り乱れは、今後いつそうはげしくなるだろ  
うことが容易に推測される。

現在の段階では、絵本へ主として子供が  
自主的に見る」と、一般の単行本へ子供は  
自立的に読めないで、父・母・年より・  
保母さん等に読んでもらう」の果している  
役割の大きいことに、重ねて注意せねばな  
らぬ。(このような「読み合い」形式の拡  
大は「語り合い」形式の縮少を伴うものと  
して理解される)すぐれた絵本・より整っ  
た物語本の出版が強く望まれる次第だ。

映画やテレビ・ラジオによる伝達は、今  
後一層意図的に強力に進められ、拡大方が  
図られていくであろう。そういう時代的な

使命を、それらのものが荷っているように  
見うけられる。

しかし、こういった「物」を利用して、  
比較的容易に、しかも効果的に進められる  
方法に併行して、素朴なまなめるい方法と  
は言われようが、「口から耳へ」の「語り  
もの」形式——つまり語り手と聞き手が直  
接にふれあう方法も、ひんばんに採りあげ  
られ、思慮深く研究が進められねばならな  
いものであろう。

第1表下欄の推移型とは、子供らの知得  
状況が、年と共に高まっているものが↓  
(順型)。その逆に知得率が低下している  
ものが↘(下降型)・また一度向上し次い  
で低下しているものが↘(上昇下降型)。

上昇後停滞しているもの(停滞型)とい  
う風に、知得状況の推移を、一応型に描い  
てみたものである。調査十一話中、順型(向  
上型)が、桃太郎・花さかじい・うさぎ  
とかめ・こぶとり・かぐやひめ・赤ずきん  
で、中でも桃太郎・うさぎとかめは、それ  
ぞれ一〇〇%(昭和31年)に達している。

知得下降は、浦島太郎で、下降的な浮動性  
のあるものは、かちかち山・一寸法師であ  
つた。

ついでであるから二・三、類縁指数を記  
しておこう。(以下すべて%は知得指数)

▽「ねずみのよめいり」の経路指数(二四  
年度)は、本によるもの一二・四%、母  
によって四・一%、おばあさんから四・  
一、おじいさんから二%で、混乱期にあ  
つた戦後の社会情勢がここにもうかがえ  
る。

▽「シンデレラひめ」八八・三%(二八年)  
八二・四%(三一年)

▽「文福茶釜」七四・二%(二四年)、八〇  
・五%(三一年)

▽「大江山」一〇・四%(二四年)

▽「ジャックと豆の木」五五・九%(二四  
年)

▽「長グツをはいたネコ」四二・一%(二  
四年)

▽「マッチうりの少女」六五・二%(三二年)  
(東京・明星学園)